

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 59人

② 算数 59人

5 留意事項

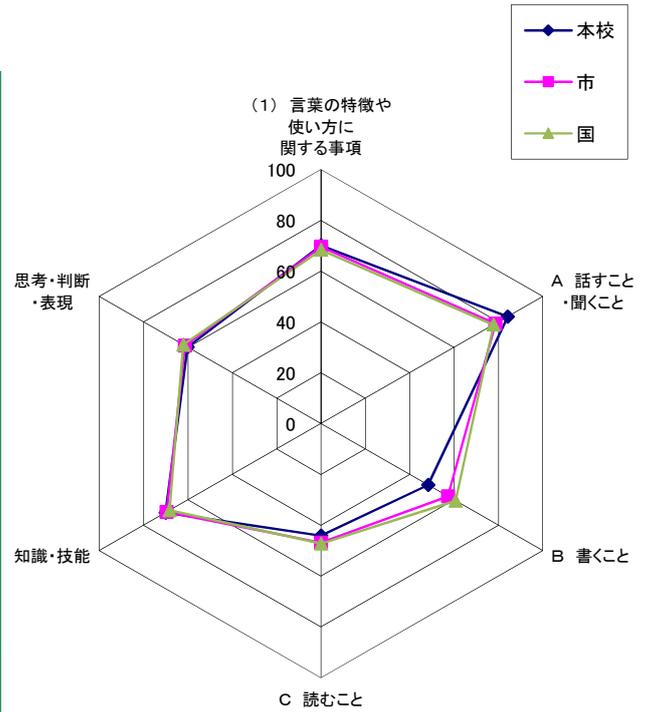
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.1	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	84.2	78.7	77.8
	B 書くこと	48.3	57.3	60.7
	C 読むこと	44.1	46.9	47.2
観点	知識・技能	70.1	69.6	68.3
	思考・判断・表現	60.2	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

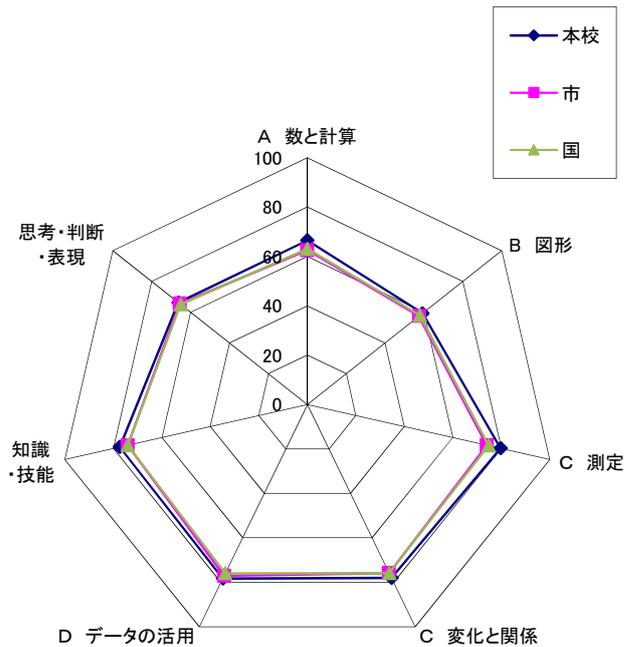
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均を1.8ポイント上回った。</p> <p>○基本的な音読み訓読みの漢字、熟語に使われる漢字については定着している児童が多い。また、文の成分である主語のはたらきについても正答できている。</p> <p>●正答に似た漢字を解答しており、同音異字について理解が定着していない。日常生活の中で正しい漢字を用いることができていない部分がある。また、主語と述語以外の修飾語などはたらきについて、理解が不十分だと思われる。</p>	<p>・読み方や字形に注意して繰り返し学習を継続する。</p> <p>・朝の学習等を活用して漢字の小テストを行うことで、言語に関する知識の定着を図る。</p> <p>・日常生活の中で、文や表現に応じた漢字や言葉を適切に使えるよう、様々な学習活動で文や文章を書く機会を設定する。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、全国平均を6.4ポイント上回った。</p> <p>○話の内容を明確にするために、「はじめ」「中」「終わり」の内容を区別して書くなど、基本的な文章の構成について理解できている児童が多い。また、自分の考えを伝えるために、適切な資料を選び、活用する設問についても正答率が高い。聞き手に自分の考えを伝えるために内容を工夫する力が定着している。</p>	<p>・自分の伝えたいことを伝えるために、必要な資料は何かを、そのときの目的や相手に応じて取捨選択できるように、今後も継続して指導する。</p> <p>・各教科や学級活動、委員会活動などの話し合い活動に積極的に参加し、自分の考えを分かりやすく伝えられるよう意識させる。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、全国平均を12.4ポイント下回った。</p> <p>●意見文の下書きの構成についての説明として、適切なものを選択する設問では、20.7ポイントと大きく全国平均を下回っている。「話すこと・聞くこと」で基本的な文章構成について正答率が高い反面、意見文において、理由や根拠を明確にしなが筋道を立てて文章を考えるという応用的な部分に課題がある。</p>	<p>・自分の主張を相手に分かりやすく伝えるという目的をしっかりと理解させながら、感想や振り返りを書くように指導していく。</p> <p>・字数を意識して文章を書く活動を取り入れていく。</p> <p>・自ら進んで書きたいと思うような条件作文等に取り組み、段落や内容の条件がある意見文が書けるよう、指導していく。</p> <p>・意見文において、理由や根拠を明確にしなが筋道を立てていく。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、全国平均を3.1ポイント下回った。</p> <p>○資料の文章が、何について、どのように書かれているのかを答える設問では、全国平均を8.8ポイント上回っている。内容の中心となる事柄を捉える力はある。</p> <p>●文章に書かれている内容と図表を結び付けて必要な情報を正確に読み取ることができていない。また、筆者の意図を要約する設問の正答率が低く、課題が見られる。</p>	<p>・物語と説明文の文章構成の違いについて確認し、説明文における筆者の意見を見出し、要約する活動を取り入れていく。</p> <p>・総合的な学習の時間等において、自分の意見を裏付ける資料を探し、選ぶ活動を行う。</p> <p>・多くの読み物資料に触れさせることで、登場人物の心情を捉える力の向上を図る。</p>

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.5	62.6	63.1
	B 図形	59.3	57.5	57.9
	C 測定	79.7	74.1	74.8
	C 変化と関係	78.0	75.8	75.9
	D データの活用	78.3	77.1	76.0
観点	知識・技能	77.4	74.1	74.1
	思考・判断・表現	66.3	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、全国平均を3.4ポイント上回った。</p> <p>○示された除法の結果を日常生活の場面に即して判断する設問の正答率は84.7%と理解が図られている。</p> <p>●小数倍において、基準量が1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を説明する設問で、正答率は全国平均を上回ってはいるものの、正答率は52.5%と約半数である。無解答率も8.5%と高い。</p>	<p>・授業をはじめ、朝の学習や家庭学習等で計算スキル・プリント等を活用し、基本的な計算の仕方についてさらなる定着を図る。</p> <p>・日常生活の問題の解決のために必要な数量やその関係を捉える活動を取り入れ、事柄や関係を文で書いたり、図や式に表したりすることで数量的確な処理の仕方を身に付けさせたい。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、全国平均を1.4ポイント上回った。</p> <p>○面積の計算において、量の保存性、加法性を基に捉え、比較することができている。</p> <p>●直角三角形の面積を求める式と答えを書く設問の正答率は全国平均より2.6ポイント低く、52.5%と約半数であり、底辺と高さが直角であることをつかめていない児童が多い。</p>	<p>・図形の定義や性質についての理解を深めるために、復習を徹底する。</p> <p>・図形を複数組み合わせたときに、どのように組み合わせたのか認識できるよう、図形の捉え方について復習をする。また、学習した図形を実感的なものとして捉えられるよう、実際に図形を見せたり作ったりするなど、視覚的かつ体験的な活動を多く取り入れていく。</p>
C 測定	<p>平均正答率は、全国平均を4.9ポイント上回った。</p> <p>○道のりの差を求めるための必要な数値を選び、その答えの求め方と答えを記述することができている。</p> <p>●午後1時35分から50分後の時刻を求める設問での正答率が91.5%と、時間の測定に課題がある児童が8.5%いる。</p>	<p>・他教科と関連させるなど様々な場面で、複数の情報から必要な情報を読み取る活動を取り入れ、問われていることに対して答えるためには、どの条件が必要かを判断する力を身に付けられるようにする。</p> <p>・問題文を丁寧に読み取ることの指導を継続していく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、全国平均を2.1ポイント上回った。</p> <p>○速さと道のりを基に時刻を求める式を立てることができる児童が88.1%と全国平均を3ポイント上回っている。単位量当たりの大きさの学習で、基本的な問題を習熟度別で徹底して行ってきておりある程度身に付いてきている。</p> <p>●速さが一定であるときの道のりと時間の関係を考察する設問では全国平均を2ポイント下回っている。</p>	<p>・伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、それらの関係をつかんだり、表や式を用いて変化の特徴を捉えたりできるように復習をする。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、全国平均を2.3ポイント上回った。</p> <p>○棒グラフの数量や項目間の関係を読み取る設問では正答率がともに93%を超えており、よく理解できている。</p> <p>●複数の帯グラフのデータから示された特徴をもった項目とその割合を記述する設問では、全国平均は3.9ポイント上回ってはいるものの、正答率は55.9%であり、半数の児童はデータの活用に課題がある。</p>	<p>・百分率の求め方や割合の読み取りなどについては、繰り返し復習を行い、基礎的な学習内容の定着を図る。</p> <p>・グラフや資料の内容を正確に読み取ることができるよう、丁寧に指導していく。</p>

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思いますか」の設問に「当てはまる」と答えた児童の割合が60.0%で全国平均より23.8%も上回っている。常に明るく前向きな本学年の児童の傾向を示していると思われる。今後も良いところを認め、励まし伸ばしていきたい。

○「友達と協力するのは楽しいと思いますか」や「学級生活をよくするための学級活動での話し合い」「道徳での学級やグループでの話し合い」の設問に対して「当てはまる」と答えた児童の割合が全国平均よりも高く、友達と協力したり、話し合ったりして問題解決につなげていく力を伸ばしている様子が伺える。「自分と違う意見について考える」「友達の話最後まで聞く」については「当てはまる」と答えた児童は全国平均を下回っていたので、話し合いの進め方やルールについてさらに工夫していかなければならない。

●一方、「家で自分で計画して勉強していますか」や「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」など学習に関する設問では全体的に「当てはまる」と答える割合が全国平均より低くなっている。また、「国語や算数の勉強は大切だ」「国語は社会に出たときに役立つ」に「当てはまる」と答える児童の割合は全国平均より高いにもかかわらず、授業や家庭での学習に取り組む意欲が低い児童が多いと考えられる。日々の学習の積み重ねの大切さを伝えていかなければならない。

●「普段(月～金)、どれくらいの時間テレビゲーム(スマホ等含む)をしますか」の設問では「4時間以上」、「3～4時間」と答えた児童がともに全国平均を上回っており、合わせて40%となっている。放課後の時間を考えると、学習や睡眠が削られている状況が見られる。保健指導や児童指導と連携し、ゲーム等の取り組みに対する注意喚起を継続して行っていくたい。

●「学校の授業以外に普段(月～金)にどのくらい読書をしますか」の設問では「全くしない」と答えた児童が30%と最も多く、「10分より少ない」と答えた児童と合わせると51.7%に上る。普段、本を手にとって読む習慣はなく、上記のようにゲーム等で過ごしている状況が分かる。授業で図書を利用する機会を増やしたり、ブックトークなどで本を知る活動も取り入れていくことが必要である。

宇都宮市立宮の原小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業の最後にまとめや振り返りの時間を確保し、本時のめあてに沿った振り返りを、一人一人がノートに言葉で書く時間を設けている。	「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の質問に対する肯定的に回答した児童の割合が、県・全国の平均より高くなった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」や「家庭学習カード」を活用したり、年間3回「家庭学習強調週間」を実施したりし、家庭と連携して目標時間や内容を意識した家庭学習の習慣化を図っている。	「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、全国平均と同程度であったが、県の平均より低かった。「学校の授業以外に、普段(月～金)どれくらい勉強をしますか。」の質問では、全くしないと回答した児童はいなかったが、6年生の目標時間60分を少し下回っている児童の割合が多かった。
対話的な活動から学びを実感できる学習活動の工夫	「自分の思いや考えをもつ子ども」「進んで伝え合い、学び合う子ども」の育成を目指し、対話的な活動を積極的に授業に取り入れている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、県・全国の平均より高くなった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎的・基本的な学習内容については比較的よく身に付いているが、発展的・応用的な問題に対応する力が弱い。	単元のまとめの時間等を生かした学習内容の充実	各教科の各単元におけるまとめの時間等で、発展的な応用問題を積極的に取り上げていく。習熟度別学習の機会を生かして、児童が意欲的に発展的な問題に取り組めるような機会を増やす。AIDリル等を有効に活用していく。